

## 2020年度 事業報告

### 2020年度 年間入所人員状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳児	2	2	2	2	5	7	7	7	7	7	7	7	62
1歳児	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	17	198
2歳児	18	19	19	20	20	16	16	17	17	17	17	17	213
3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21	242
4歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18	205
5歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
合計	91	92	92	93	96	93	93	94	94	94	95	97	1124

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、4月半ばから5月半ばまで登園自粛要請の中、感染防止対策に時間と労力を費やしながら緊張を伴う中での保育が続いた。例年行っていた行事は、中止や延期、縮小となり、子どもたちや保護者、地域の方をはじめとし、職員にとっても、今までに経験したことのない状況の中、先の見えない不安の中での日々が続いた。暮らしの変化は、子どもの変化につながるため、保育園はそれを受け止め、保育自体も変わらなければならない環境の中で、日々工夫をしながら、安全で情緒の安定した生活ができるように取り組んできた。「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現。すべての人が、子どもや子育てについての価値を認め合い、子育てを楽しむ気持ちと互いに支えあう社会が成り立つことを基本において、すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会を築く。」については、子どもたちが地域の未来を支え築いていく存在であることを認識し、地域の子どもの減少を阻止するには、どうすればよいかを議論した。

#### 子どもの育ちを保障する

(1) 保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供するように努めた。

- ・自分で考えられる力をつける。人との協調性をもち、自主的・積極的に保育に取り組もうとする力をつけるよう、また、困難にも諦めないで取り組もうとする力をつけるよう努めた。
- ・目先の学力より、後伸びする力（非認知能力）を大切だと考える保護者が増えるような保育の実践に努めた。
- ・子どもは家庭環境や体験したことが一人ひとり違うので、一人ひとりを大切にし、その子にとって一番良い考え方や援助をし、それによって子どもたちの感性や活動が広がり、豊かな体験へとつながっていくような保育を実践するように努めた。
- ・保育園の保育と小学校教育との円滑な接続のため連携に努めた。
- ・小学校は、園がどのような保育をしているのか、園は小学校がどんな学習をしているのか、理解を深めるためにもお互いの交流を図った。（新型コロナウイルス感染防止のため1回）
- ・乳児期から青年期まで連続した発達の視点による保育をするために、個々の特性や家庭状況等を密に連絡しあう。また、保護者のサポートも不可欠なので保護者との連携も必要である。

(2) 保育者の資質向上を図る。

・「保育の質は、保育者の質」

乳幼児の子ども達にとって保育園は生活の場であり、『遊び』は重要な学びと発達のある場である。子ども達は、遊びを通して様々なことを経験しながら、学び、心、体、知、社会性が発達していく。保育者の主要な役割は、その発達を支援することであり、そのために常に子どもが今、何を学んでいるか見極め、最適な関わり方を判断していかなければならない。従って子ども達の発達を促す良い保育（＝質の高い保育）を行うためには、保育者の力量が不可欠であるので日々の研鑽であるという意識を持って保育実践に取り組んだ。

・研修などを通して新しい知識・新しい考えを取り入れる必要がある。研修の内容によって参加したい職員がいる時は、参加できるように配慮する。自分の意見を素直にいえる環境があり、また相手の意見も取り入れられる柔軟な心を持つことにより職員同士の向上を目指すことが大事であるので、そのような環境づくりに努めた。 その中でも職員会等で職員の意見をできるだけ聞くようにし、反映するようにした。

・研修会に参加した職員の報告を元に職員が議論をし、共有化を目指す。 職員会で研修した内容を共有するために報告の時間をとった。

・キャリアアップ制度を利用して、研修会が行われる時には、参加した。

(3) 職員間の共通理解・信頼関係の構築をいっそう図り、自己課題発見（年1回実施自己課題発見シート活用）に努めたが十分に生かしきれていない。

・職員がお互いの立場を理解し、思いやることが一番大事である。そのためには、それぞれの意見が言えるような雰囲気が必要で、お互い納得できるまで話し合える環境の中で信頼関係を築いていくように努めた。

・皆で決めたことについては遵守し、間違っていることは年齢、経験年数にかかわらず、言い合える仲になること。また、指摘されたことは素直に受け止めていくようにすることが必要。

・組織の目標達成が第一と考え、自己の損得でなく、どうすることが善いか悪いかの判断ができるように努めた。

(4) 地域貢献に取り組む

・ふれあい広場（園庭開放）・・・毎週木曜日（新型コロナウイルス感染防止のため、数名）

・一時預かり保育

・就労形態等で、月に何日か保育が必要な方。

・出産、急病等で急にお子さんを預けたい方。

・たまには、子育てから離れてリフレッシュしたい

・集団保育を体験したい方。

※少子化社会において、小規模保育施設（3歳未満児19人まで）の増設、幼稚園の認定こども園（3歳未満児の受入れ）等が主な理由で一時預かり保育利用者が減少傾向にある。

・夏祭り、ふれあい展、自立支援施設との交流を図ることができなかった。

（新型コロナウイルス感染防止のため）

・児童相談所・教育研究所・家庭支援センター・保健師と連携をとるよう努めた。